

# 若狭ネット

第94号 2005年 12月19日

発行：若狭連帯行動ネットワーク

代表連絡先 福井：「止めなくちゃ！

げんぱつ」連絡会(〒915-0235今立郡今立町不老6-36 山崎方 TEL0778-42-3630) 大阪：日高原  
発に反対する大阪の会(〒583-0005藤井寺市惣社1-1-21 久保きよ子方 TEL/FAX 0729-39-5660)  
ホームページ <http://www4.ocn.ne.jp/~wakasant/> E-mail: wakasa@gaea.ocn.ne.jp

## 大地震に耐えられない女川原発を動かすな！ 原発耐震設計審査指針の抜本的強化を！

### 1・18 対政府交渉に参加を！

日時：2006年1月18日(水)午後2時～

場所：参議院議員会館 会議室

(地下鉄丸ノ内線 国会議事堂前「下車歩5分」)

(紹介議員は近藤正道社民党参議院議員です。  
事前打合せを午後1時から同じ場所で行います。  
当日参加者は必ずこの会合に出て下さい。)

別紙の質問状(案)を連名で提出し、政府を追及します。

全国の皆様の団体、個人の賛同をぜひお願いします。

質問状(案)にご意見をお寄せ下さい。また、交渉に一

人でも多くご参加下さい。全国各地からの行動参加者には交通費の半額をカンパで賄います。

1口1千円で何口でもカンパをお寄せ下さるようお願いします。

郵便振込口座番号：00940-2-100687 (加入者名 若狭ネット)

1月10日を第1次締め切りとします。交渉にご参加下さる方は事前に若狭ネットの久保または呼びかけ団体へご連絡下さい。質問状(案)への追加・修正意見は下記の「専用」へご連絡下さい。

連絡先：TEL/FAX 0729-39-5660 (久保方) または FAX 専用072-330-1630

呼びかけ：原子力発電を考える石巻市民の会、みやぎ脱原発 風の会、若狭連帯行動ネットワーク、原子力資料情報室



### 美浜3号事故、配管取替え工事における刻印打替について

## 12月2日(火)午後6時～ 関電交渉

午後6時に関電本社前に集合し、ダイビルへ移動します。(交渉場所のダイビルは旧関電本社横、以前に交渉していた場所です。地下鉄四つ橋線 肥後橋「駅下車 徒歩5分」)

宮城県沖地震で耐震設計審査指針が破綻！  
政府の責任を追及し、指針の抜本的強化を！

姉齒建築設計事務所による構造計算書の偽造」事件が大問題になっています。近い将来起こるかも知れない大地震でマンションが倒壊する恐れがあるのです。これと同じ耐震性の問題が宮城県の女川原発で浮き彫りになりました。どの原発でも同じ問題があるのです。

女川原発が最近2年余の間に2回も地震で自動停止しました。2005年8月16日の宮城県沖地震と2003年5月26日の三陸南地震です。いずれの地震でも、地下岩盤で観測した地震動による応答スペクトルが、原発の耐震設計審査指針で策定した設計用地震動による応答スペクトルを超えていました。しかも、原発の耐震性にとって致命的なビビリ振動＝短周期成分が非常に強い地震動だったのです。

これは耐震設計の基本となる基準地震動の策定方法が間違っており、地震の揺れの大きさを小さく設定したためです。これでは、女川原発は大地震に耐えられません。政府は女川原発の設置許可を取り消し、安全審査をやり直すべきです。今の設計用基準地震動の策定方法が間違っていたこと、とくに、地下深くで起きるプレート境界地震やスラブ内地震の地震動を過小評価していたことを率直に認めるべきです。原子力安全委員会は現在、耐震設計審査指針の改訂作業を行っていますが、そこに今回の問題を反映させるべきです。耐震設計審査指針を抜本的に強化し、全国の原発の耐震性を見直すべきです。

そこで、緊急ですが、宮城県の地元2団体および原子力資料情報室と共に、経済産業省原子力安全・保安院および原子力安全委員会との交渉を呼びかけています。別紙をご覧下さい。そして、ぜひご協力をお願いします。

関電は、活断層の長さを短く評価して、設計用地震動を小さくしている



女川原発では応答スペクトルの評価方法が間違っていたのですが、それ以外に、どの原発でも活断層の長さを短く評価したり、地震動を小さく見せかけて耐震設計をしている可能性があります。地震調査研究推進本部（推本）が最近まとめた全国の活断層長期評価では、これまで電力会社が短く評価していた活断層が連動して大きな地震をもたらす可能性を指摘しています。原発の耐震設計を根本から見直す必要があるのです。

例えば、推本は一昨年と昨年に若狭湾近辺の活断層の長期評価を公表しています。ここでは、関西電力等が短くぶつ切りで評価していた活断層を連動する活断層帯ととらえ、大きな地震が起こる可能性を示唆しています。この評価結果に基づいて当然これまでの活断層評価を見直すべきですが、関電が若狭湾近辺の活断層を再調査・再検討したとの情報はありません。ところが、原子力安全・保安院は今年2月末、日本原電に若狭湾近辺の活断層の再調査を指示しています。この調査は敦賀3・4号増設の安全審査に関係したものです。敦賀半島周辺の海域活断層が多く含まれており、美浜原発、敦賀原発、高速増殖炉もんじゅの耐震性評価にも影響します。

関電は敦賀3・4号増設にからんで日本原電へ社員を派遣しており、この調査にも関係しているはずですが、こそこそと陰に隠れるのではなく、推本の評価を正面から受け止め、活断層を見直すべきです。活断層をぶつ切りにするトリックでさも「安全です」とごまかしてきた関電の責任を厳しく問いただす必要があります。

昨年8月9日の美浜3号事故の直前に、未点検は抽出したが、異常だとは考えなかった」という人たちが美浜原発を動かしているなんて

関電の事故報告書を見直してみると、11名の死傷者が出た事故が起



こる1週間以上前に、この配管が28年間未点検で点検漏れだと発見していながら、どうして「異常だ」と考えなかったのでしょうか。本当に不思議です。どう考えてもおかしいのです。

関電広報部は、若狭支社への点検漏れの報告書を作成している最中に破断したとしていますが、この点検漏れの発見をどのように報告しようとしていたのでしょうか。

今年起こした配管取り替え工事の「刻印打ち替え」は、検査員が「高い使命感や機転」で偶然発見したといえます。これと同様に、点検漏れを発見した担当者も当然、若狭支社へ「28年間未点検という異常を発見した」と報告し、対応を相談したはずですが。しかし関電広報部は、「この担当者や報告を受けた技術者が『追加点検箇所の抽出』を超える『異常』の発見だとは認識しなかった」と言い張ります。本当にこの事態が異常だと考えなかったのでしょうか。こんな人たちが危険な原発を動かしているのでしょうか。いまだに信じられません。

点検漏れを容認する体質があるのでは？

「刻印打ち替えなどしてはならない」ことを誰よりもよく知っていなければならぬ品質管理責任者や所長までもが、不備な処理を「承認」していました。このようなことが実は美浜事故でも起こっていたのではないかと疑ってしまい

ます。美浜3号事故報告書では、「配管の未点検は事故が起こるまで知らなかった」としていますが、「異常の発見」という報告を受けた品質管理責任者や所長が、関電本社と十分連絡をとりながら、「あと1週間後に定期検査で止まるから、動かし続けよ」という指示をだしていたのではないかと疑ってしまいます。

関電は、美浜発電所3号機事故の再発防止を目指して、再発防止対策に取り組んでいるなかで、刻印打ち替えのような不適切な事象を発生させたことを深く反省いたしております。このような事象を二度と発生させないよう品質保証活動の一層の強化を図ります」としていますが、何度反省し、何度対策を立てれば、品質保証システムが整備されるのでしょうか。とてもできそうにありません。

おどろくべきことに、電力会社は、定期検査を一層短縮し、原発を13カ月を超えて20カ月まで連続運転し、運転しながら点検する方法を導入しようとしています。経済産業省などもそれを後押ししています。「品質保証の強化」といいますが、実際は、検査の簡略化が進められようとしているのです。東電のひび割れ隠しが発覚した後では、検査を一層厳しくするのではなく、定期自主検査制度と維持基準が導入されました。運転中に定期検査の準備作業を進め、点検漏れの配管が破断して死者を出した今回の美浜3号配管破断事故の後では、原発を運転しながらの点検システムや定期検査間隔を延ばすインセンティブ検査制度の導入が狙われています。事故のたびに検査制度が緩和されていく…このままでは危険です。一日も早く原発を止めていかねばなりません。

12月27日(火)に、今年最後の関電交渉を行います。関電の姿勢を共に厳しく追及しましょう。午後6時に関電本社前に集合し、ダイビルへ移動して交渉します。ご参加下さい。

今後の予定

## 12月25日(日) 午後2時～ アスベストを考える 学習会

場 所：東淀川勤労者センター (JR新大阪 駅徒歩10分)

連絡先：地球救出アクション97 稲岡(TEL 072-332-9279)



## 12月27日(火) 午後6時～

### 美浜3号事故、配管取替え工事における刻印打替について 関電交渉

午後6時に関電本社前に集合し、ダイビルへ移動します。



(交渉場所のダイビルは旧関電本社横、以前に交渉していた場所です。地下鉄四つ橋線 肥後橋 駅下車徒歩5分) 質問状はホームページに掲載しています。



集合時間に遅れた場合はダイビルへ

## 2006年1月18日(水) 午後2時～

### 女川原発の設置許可を取り消し、耐震設計の安全審査をやり直せ!

#### 1・18 対政府交渉に参加を!

場所:参議院議員会館会議室 (地下鉄丸の内線 国会議事堂前 下車歩5分)

**(同封の呼びかけをご覧ください。質問状(案)への賛同・ご意見とカンパをお願いします。)**

#### 編集後記

・この冬は、暖冬といふ気象庁の予報は大きく外れ、大寒波が日本全国を襲っています。

耐震設計で、マンションやビルが、震度5でも倒壊の恐れがあるという報道が続いています。自民党の幹事長は、建設業界全体に波及するのをおそれての発言でしょうか、徹底的な追及をするなどという発言までとびだしています。また、一方では、株売買の間違った取引操作とシステム設計ミスで、証券会社が大損し、瞬時に大もうけをする人まで出ている有様です。私たちが望んでいた社会と全く違う方向に進んでいるように思えてしかたありません。

阪神淡路大震災以降、「地震列島日本で原発ははたして大丈夫か?」という疑問は、ますます現実味を帯び、危ないということが、各地で起こる地震によって明らかとなってきています。原発の耐震設計の考え方が根本的に間違っているのを改めさせなければ、地震が起こり、原発から大量の放射能がまき散らされ、日本社会全体が危機的状況にみまわれるのではないのでしょうか。

来年早々から地震問題での対政府交渉と、定期検査短縮・長期連続運転などで原発をムリヤリ動かそうとする関西電力との闘いにがんばらねばなりません。

皆様にとって、今年はどうな年でしたでしょうか。来年もよろしく!

きよ子